



つい数日前、都内某所を歩いていたら、真新しくアスファルトで舗装された一画に出くわした。えっ？あれツ？ここ花屋さんではなかったかなあ？前を通る度に、活けてある色とりどりの綺麗な花と、飾ってある季節季節の鉢植えとで、信号待ちをしながら、何かほっとした気持ちを覚えていたのだけれど、わずか10日余りの間に変わってしまった。意識してた訳では無いが、何時までもこのまま、これが普通だと思っていたのだが、突然変わってしまった。

バドミントン界もそうである。新型コロナのせいで、あらゆることの手順が違ってしまった。夏の高知大会も中止、大学で言えばリーグ戦もインカレも中止：それどころか普段のトレーニングもままならなくなってしまった。学内の体育施設は閉鎖、地元のスポーツセンターなども閉まってしまった。小生などはストレスが溜まって、夢の中で、ソノカムと壮絶なドライブ合戦。目が覚めると、汗びっしょり、くたくたで、右腕が布団から上に出ていたりする。暮れの25、26日に東京・葛飾で行われる第10回全日本教育系学生バドミントン選手権大会も、開催出来、無事に終わるとよいのだけれど…。

学校：とくに大学なんかは、当局がびびって、キャンパスライフもままならなくなってしまっている。せっかく入学したのに、登校出来たのは入学手続きと学生証をもらいにいった時の2回だけなどという例もある。学生が可哀そうである。図書館の利用はおろか入構すら制限がかかっていたりする。ひどい話である。

オンラインに利点無しとはしないが、教職員を含め人と人が出会って日々を過ごし、対面授業や部活等を通じて様々なことを学び情報を交換する：これが本来の学校生活ではないのか？

バドミントンも同じ。DVDや指導書によって色々なショットや動き、ルール等を学ぶことが出来るが、実際にコートに立って見ると、なんとコートは広いことか！シャトルのコントロールが難しいことか！試合ともなれば強敵に当たったり時にはマナーの悪い相手と戦って行くことになる。巡り合せが悪く団体戦の敗因を背負うことになってしまったりもする。でも、それによって、バドミントンの技術・戦術は勿論、人間性も培われて行くのではないか？その絶好の場が失われてしまった。ついこの前まではキズナ・絆とうるさいほど言っていたのに、ソーシャルディスタンスとやらで、妙によそよそしくなり、ぎすぎすしている。この間(かん)味わった体験：それらが今後どのような形を取って出て来ることになるのか、指導する側のみならず甚だ心配である。

ラケットやシューズ、ウエア等も随分変わった。何よりもラリーポイント制が導入されたことはとても大きな変革であった。

しかし、永遠に変わってはいけないことがある。それはバドミントンがとても楽しいスポーツであるということである。ルールの遵守はもちろん必須であるが、様々な場に於いて相手に対するオマージュを忘れずに、品位とゆとりを持って進めて行くべきである。それにつけても、嫌がらずに動きの悪い小生の相手をして下さった方々に深甚の謝意を捧げる次第である。あれツ？こっちに飛んできたシャトル、どこ行った？ったく！後ろに落ちてますよ、後ろにつつ！

表紙の人	巻頭言	目次
全日本教育系学生大会要項	高橋理事長の叙勲	
第十回	令和二年度 総会資料	
自粛期間中の活動について	令和元年度事業報告	
	令和元年度決算	
	令和二年度事業計画	
	令和二年度予算	
	新役員	